

四国民放クラブだより

「空海部会」第20回例会報告

芝田 豊壽 (RNB)

第20回空海部会例会は、台風6号接近による豪風豪雨の中開催となった。

多忙な三角寺住職の日程を調整し5月12日を選んだのだが台風6号にも選ばれてしまった。

幹事は、不安は残るが強行実施に踏み切った。参加者は当初予定の23名で一人の欠席もなく安堵。

例会は、春、秋の2回実施。今回は丁度10年目となる。

昨年は空海が42歳の厄年から始められたといわれる巡礼も1200年。

そして今年が高野山開創1200年の節目となる。

我々の「空海部会」と即身成仏された高僧との不思議な縁を感じる。

今回は、参拝の前に四国中央市一帯の観光から始めることにした。シルクロードでなじみの敦煌には日中それぞれ25名の歴史上の人物による「志」の文言記念碑が「励志碑林」として市民公園に建立さ

れているとのことを取り入れ、在野の政治家小野晋也氏(元衆議院議員)がこの地に「志の道」として、吉田松陰をはじめ12名の文言碑を建立されているので歩いて偉人の言葉を味わいたいと考えたからだ。

早速小野晋也氏に連絡を入れたら賛同して下さり、先生からもご案内を頂き下調べをかね先生の塾生さん達の仲間入りをしてみた。

ヤングリーフ・ハウスを訪問。ここは志の道の近くにあり、「人間の森文明」の拠点として老若男女の学びの場であった。

この日の天候では下調べも生かされず霧の森公園内のルームで、参加して下さった小野晋也氏のお話しを冊子を参考にしながら聞く研修となった。

私たちの質問に答えられた回答は、「それは教育です」だった。

その時突然携帯電話が鳴った。三角寺の河村住職から「今日はJRも一時ストップしたようですが、空海部会は中止ですか「いえいえ、予定通り参拝させてもらいます」。

愛媛の最後の札所三角寺。予定通りの到着。四国四県の中央にあり集合しやすい場所である。



台風余波の豪雨を避け三角寺の軒下で河村住職から寺名の由来などを聞く

寺を参拝後本堂で縁起説明を受けた。

山門、仁王門と鐘楼門が一つになったのは八十八ヶ寺の中でも唯一のこと。又三ヶの池があり、その中に島らしき石があり、そのうえて21日間弘法大師が秘法を修したことに因みこの寺では三角形の護摩壇が造られる。

それらが寺の名前の由来となっているようだ。本堂の中で平安初期の作「一木造りの本尊十一面観音像」が自愛の眼差して私達を見ていてくれた。

これでこそ登りがひあり山桜

小林一茶句碑

菩提の道場伊予市最後の寺三角寺、参加者全員心の中に何かを感じ得た雨の中の修業となった事だろう。風雨の中23名全員、事故もなく研修を終えることができ世話人として感謝の気持ちを含め報告とする。

次回は香川県の担当で高野山参拝を企画。

27年度事業計画審議

四国民放クラブの27年度総会は4月14日、松山市道後の「にぎたつ会館」で地元南海放送の田中和彦社長、日本民放クラブ神山廣信理事を迎えて開催した。

総会は空海部会をはじめ、写真部会ゴルフ部会等の事業計画を決め、さらにここ数年休会していた旅行部会が秋に計画されている空海部会の「高野山参詣」を会員にも呼び掛け実施する。クラブ結成以来参加してきた「あしながPウオーク」は昨秋の松山と高松で開催されず事務局との連絡も取れないことなどから不参加と決めた。